No. 3

安心できる老いの場を

リポーター **成田ケイ**さん
（餌釣）

大館市では「老いても健康で安心して暮らせる地域社会づくり」を目指して、多様な福祉政策を活発に展開しています。年々施設も増え、ホームヘルパー、デイサービスなどの利用も活発になっており、以前に比べると格段の充実ぶりです。何よりも、福祉関係の仕事に従事するかたがたの熱心で献身的な仕事ぶりには頭が下がる思いがします。

今回は、高齢者福祉の中から主に住居の問題について、市の福祉事務所の小玉所長にお話を伺ってみました。

年老いて体が不自由になったとき、どこでどのように老年を過ごすか、という不安を抱えるかたは少なくないようです。特別養護老人ホームに入りたいと希望しても施設の収容能力には限りがあり、現在約百四十人のかたが空き待ちの状態にあるそうです。

一方で、住み慣れたところ、自分が住みたいところになるべく長く居住したい、という人々の自然な気持ちに配慮して、在宅福祉サービスの強化がいわれています。

持ち家率全国第三位の秋田県でも住宅の老朽化は進み、中には高齢者介護に不便な住宅もあって、家庭内の事故によるけがでそのまま寝付いてしまったという話も聞きます。住宅改善の必要性は高まっています。

これらの住宅の改善策の一つとして、六十歳以上の高齢者と同居するかたが高齢者用居室を増改築する際に資金が借りられる制度があります。

そこで、大館市の現状はいかがなものか、伺ってみました。所長のお話によると、「高齢者住宅整備資金貸付制度への問い合わせは、今年度に入ってからは十件ほどありました。しかし、実際の申請は、今のところ出ていません」とのこと。毎年問い合わせはあるものの、残念なことに申請件数はあまり多くはないようです。その理由は何なのでしょう。

私の知人で、五年前、奥様の介護にこの資金を活用しようと申し込んだかたがいます。しかし、保証人が得られず断念せざるを得なかった、と聞きました。せっかくの制度が、保証人がネックになって活用できないとすれば大変残念なことです。申請者も高齢であることが多く、どうやらその辺りに原因がありそうなのですが、この問題を解決する名案はないものでしょうか。規定に従うのは当然ですが、制度の趣旨を生かし、少しでも高齢者の住宅改善に役立てるために、弾力的な運用について工夫していただきますよう、市へお願いしてまいりました。なお、市では、階段に手すりを付けたり、床の段差をなくすなどの改造工事についても遠慮なく相談して欲しい、とのことでした。

成田リポーター

小玉所長

次に、福祉施設の充実について伺いました。特に、北部老人福祉総合エリアはその完成が待たれています。

十一年度オープン予定の諸施設の定員は、特別養護老人ホームが百人。うち痴ほう性老人四十人の痴ほう性老人対応型であるとのこと。併設される介護センターはショートステイ二十人。ケアハウスは百人（八十世帯程度）。老人保健施設は百床。ケア付き住宅は五十人といったところだそう。

現在多数の待機者を抱えていることに加え、今後も入居希望者が増えると予想されるので、希望どおり入居できるか楽観はできないようです。高齢者住宅と医療福祉センター等を備えた「花岡ニュータウン計画」の早期実現にも期待します。

どこで老いるかという問題が真剣に取り上げられ、「老いの場づくり」が重要な課題になっていますが、安心して人生の最後を迎える場所の確保・充実は、公的な住宅政策と深く関わります。ようやく福祉という視点から住宅政策が話題にのぼるようになりました。住宅の問題が遅れているのは多額の予算を必要とするのでやむを得ない面もあろうかと思いますが、時間的に余裕のない高齢者のことですので、一日も早い対応をお願いしたいものです。

将来の課題として、福祉の会議などで話題になっている高齢者集合住宅の建設、町内など地域の空き家・町内会館などをグループホームに活用する方策の検討についても話してまいりました。

お忙しい中、熱心に対応してくださった所長さんに心からお礼申し上げます。